



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2025年5月11日(日) 9:30~12:00(晴)

参加者 一般:4名

指導員:2名

テーマ 夏鳥は来たかな

少し風が強いものの五月晴れで、クスノキの花の柑橘系の香りが漂う中での観察会です。テーマは愛鳥週間(5/10~16)にちなんで夏鳥ですが、この時期は若葉が伸びて姿は見つけにくく、鳴声に注目し、あわせてこの時期に見られる花をめながら回りました。

タワー付近で小さなヒメヨツバムグラの花を観ました。近くにあった同じ仲間のヤエムグラと葉の大きさや枚数を比べてみました。この仲間は葉が輪生しているようにみえて、実は対生で、2枚の葉以外は同じ形状の托葉ということです。桜の根元にはブタナとヒメブタナが並んで咲いていました。花の大きさや葉の表面の毛の生え具合を比較することができました。

堤防脇のトウカエデの幹にエナガの巣がありました。3日前までは親鳥が難に餌を運んでいたということですが、巣立ちしたのかもう巣の中に姿はなく、親鳥の姿も見られませんでした。

大野極楽寺公園の野鳥園の竹藪の中で、今年もオオタカが営巣していましたが、カラスの集団に襲われて巣を放棄し、雛が巣立ちできなかったということです。残念! 川原のヨシ原ではオオヨシキリの賑やかな鳴声が流れ、川原の芝生の上をツバメが飛び交い(公園管理棟の軒下では営巣中)、林の中ではキビタキの澄んだ響りが聞かれましたが、センダイムシクイやエゾムシクイといった通過中の夏鳥には出会えませんでした。

川原や堤防法面は草刈りがされたばかりで、観察できる花は少なめでしたが、大野極楽寺公園の水路では特定外来植物のオオカワチシャが青い花を付けていました。昨年、駆除が行われましたが、繁殖力が強く、広範囲で復活していました。

先月まで花が見られたミヤマウグイスカグラは、今年是不作で実の付きが少な目でした。赤い実をルーペで見ると表面に毛があり、その先端は腺になっています。

トベラの花には訪れたコチャバナセセリを見ていたら、付近に小さな蛾が止まっていました。幼虫が桑の葉を食草として育つチビスカシノメイガの羽化した成虫でした。

ハウウンボクやトチノキの花は既に終わりかけでした。花の時期は年によってずれるようで、今年は早めに開花したのでしょうか。(報告:齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥:トビ、カワラヒス、キジバト、コゲラ、メジロ、ヒヨドリ、シジュウカラ、ハシブトガラス、ハシボロガラス、ウグイス(声)
虫:モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ナガサキアゲハ、ベニシジミ、ツマグロヒョウモン、ヒメウラナミジャノメ、シオカラトンボ、クロスジギンヤンマ、コアオハナムグリ、マメコガネ、セイヨウミツバチ、クロマルハナバチ

花:オオキンケイギク、ニホンタンポポ、オニタビラコ、ヤブタビラコ、ニガナ、オオジシバチ、ノアザミ、キツネアザミ、ハルジオン、ナワシロイチゴ、オヘニイチゴ、ヘビイチゴ、コデマリ、ハマナス、センダン、ヒトツバタゴ、ヒナギキョウ、コメツブメクサ、シロツメクサ、カスマグサ、スズメノエンドウ、トウバナ、オオイヌノフグリ、マツバウンラン、ムラサキサギゴケ、ノミノツツリ、ウシハコベ、ムラサキケマン、スイバ、ギシギシ、ニワゼキショウ、オオニワゼキショウ、セッカニワザキショウ、オッチカカタバミ、カニツリグサ、マスクサ、フトイ



(ブタナとヒメブタナの違いを観察)



チビスカシノメイガ



ツバメが営巣中



春先から出るコチャバナセセリ



毛があるミヤマウグイスカグラの実



終わりかけのトチノキの花